

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100011		
法人名	株式会社マル若商店		
事業所名	グループホームホープ		
所在地	多治見市希望ヶ丘2-3		
自己評価作成日	令和5年1月24日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191100011-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191100011-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年2月8日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で、外出の機会は減ったものの、利用者様の特に食べたいもの(うなぎ・海老フライ等)での食事会の実施、季節の行事に添った小物を手作りしたり、トマト・キュウリなどの野菜を育てたり、栗ご飯など食卓で味わったりもした。また花を育てたり、地元のだんと焼き祭りに参加した。四季折々を感じながら、色んな事に楽しみを見出している。また利用者様の誕生日には職員より寄せ書きした手作りの色紙を渡して、毎回喜んでいただいている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いに細やかに寄り添ったサービスの提供ができています。食事は3食手作りでメニューも豊富である。現場の職員の声を大切に、業務改善に活かされている。住宅街の中心に位置し、散歩で近所の住民と挨拶を交わしたり、個人の庭を見せてもらったり、事業所の草刈りを町内会長がしてくれるなど、近隣との親密な関係性ができている。ホール内の作品展示物が多く、レクリエーション等が充実している。職員である看護師が協力医の医師との信頼も厚く連携が取れ、利用者や家族にも安心感がある。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族や地域との関係を断つことなく一人一人のご利用者様に合わせたサービスの提供が行えるように常に管理者と職員が連絡取り合い、より良い方法を模索した。	玄関ホールに理念が掲示され、それを基に介護方針を決め、利用者の思いに寄り添った支援が行われている。コロナ禍のため地域との交流も思うようにできない中、住宅街の中に位置する地域密着型の事業所として地域との関係作りに努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の町内会長へ運営推進会議への参加の働きかけを行っている。集会場の清掃、どんど焼き等行事にも参加した。運営推進会議はコロナ感染状況を考慮して実際開催できなかったが、書面での情報公開や、ご近所の方との触れ合いを大切に機会をつくる努力をした。	施設長と管理者が地元出身で、日ごろから深い繋がりができており、事業所敷地の土手の草刈りを町内会長がしてくれている。周辺の住民は認知症への理解があり、散歩に出ると挨拶を交わしたり、庭の花を見せてもらうなど、出来る範囲でのつきあいをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の会合の中でグループホーム・認知症への理解を離話す機会を持ち、AED設置場所であることを再度アピールした。また地域の高齢者のご家族に相談にのったり、アドバイスしたりでお役に立てないか、と話し合った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域開催の段取りまで話し合ったが、当施設のコロナのクラスター等あり、市役所への報告にとどまってしまった。今後は会議以外での意見交換も検討したい。	昨年8月事業所内でコロナクラスターが発生したこともあり、その後、徹底した感染予防に取り組み、運営推進会議は書面会議となっている。事業所の運営状況、活動報告など、議事録を会議参加予定者には配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課の担当者から提案を頂き、虐待についてアンケートを取り、それを元に出た結果を職員と共有、話し合いを持ち、また結果を運営推進会議(書面のみ)で報告出来た。	外部研修等の情報が市からメールで配信されてくる。事業所での困難事案やわからないことは市に相談し、協力関係ができています。市から不適切ケアチェックシート活用の提案があり、定期的な取り組みを検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行い、柵などが必要かの意見交換をし、拘束しないで済む方法を検討・実践した。そこで衝撃吸収マットを導入し、ベッドを一番下に下げる事で柵の使用を検討し、拘束なしの対応を実践。モニタリングを行い、意見交換を行った。現在拘束に該当するケースはなし。	身体拘束適正化委員会は職員会議の中で開催している。会議では不適切ケアの原因を分析し、虐待防止の徹底を図っている。身体拘束適正委員会の議事録の開催日時や場所、委員名、研修内容の記載がないので、今後、明記するとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義を学び、虐待に至るまえに、職員のメンタルのチェック・聞き取りを行い、気持ちのりフレッシュをはかれるように、2人の管理者で、スタッフ間の良い人間関係の築き方・研修を受け、声掛け等の指導している。		

グループホーム ホープ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	引き続き、必要に応じて社協と協議し、適正かつ継続的な援助を受けられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望者様にはご家族や利用者様本人に施設内を見学して頂き、契約書・重要事項説明書・運営規定等など詳しく内容を説明し、理解・納得を得た後、契約を締結している。また不明な点は、随時説明して納得いただく努力をした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	問題発生時などは常にご家族と意見を交わす努力をし、頂いた意見・提言は職員間で情報共有し、サービスの質の向上に繋げている。またその後の様子は家族に伝えて安心いただいた。	コロナ感染予防のため家族面会を制限しており、毎月発行するホープ便りで事業所の運営状況や利用者の様子を伝え、隔月に看護師から医療情報を家族に送付している。家族の意見や要望はメールや電話などで受け、面会が少しずつ緩和されてきている現在は来訪時に聞くこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で出た意見と申し送りノートに書かれた意見も、すぐ出来る事は実行している。提案をスタッフに投げかけ、意見を募り、介護に活かしている。	管理者も現場に入っており、普段から意見や要望は聞いている。月1回の職員会議で、職員の気づきを検討し現場の改善に活かしサービスの質の向上に繋げている。日頃業務中は上下関係の意識はなく、フラットにもの言える環境にある。	管理者は普段業務の中で職員から意見を聞いているが、業務中に話せないことや将来的な就業について聞く機会を設け、職員の経験や能力を活かす人材育成や就業環境等も運営のひとつと捉え、個人面談の取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との個人面談を適時行い、個人の心境を話してもらう事で、就業環境の整備に努めた。また給与改善について上司に提案して実現した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で様子をみながら、職員に合った研修をさがして参加してもらった。研修の成果と知識をうまく共有し、活かすことが出来なかった。今後の課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月にたじみサービスネットワーク会議(現在リモート対応)に出席して得た情報をスタッフ間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から、出来る限りの情報をお聞きし入居への経緯や入居者様のおかれた立場などを、医療社会面からよく理解したうえで、本人の立場に立ち安心して頂ける環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人・ご家族の要望を良く聞き、困っている課題を見極めながら、ご本人らしく過ごして頂けるように努力をしている。その経過をご家族に報告する事ができた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の希望を第一にお聞きし、ご家族と相談しながら、必要なサービスは速やかに情報を共有し、実行することで安心を得る工夫に取り組んだ。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症であっても、「介護される」という一方的な関係性でなく、「共に暮らす一員」という立場で、信頼関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	かねてより、家族の要望であった一泊旅行の相談を受け、時期と方法を提案し、その準備から関わりを持ち、スピーディーな対応で実現する事ができて大変喜ばれた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、以前のように関わりを持てなかった。しかし、テレビ電話などリモート対応で、利用者様のお顔を見ながら会話が出来た事で大変喜んでいただいた。	コロナ禍で、馴染みの人に会ったり、場所へ出かけたりすることは自粛しているが、家族とはテレビ電話やリモート、ライン等で利用者をつながり、絵手紙も家族は楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席順は特に気を付けて、利用者様が孤立や対立しないように職員が関係作りに努めている。利用者様同士が、自然に仲良く明るく楽しい生活が送れるように支援している。また都度見直しも実施している。		

グループホーム ホープ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設などへ転居された時には、必要な情報を提供して、利用者様やご家族が混乱しないように努めている。入院された折には、お見舞いに行くなど関係を断ち切らない関係につとめている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活で、利用者さんが他の方とうまく折り合いが保てるように、スタッフが間に入り、快適に過ごして頂けるように努めている。また時々、レクリエーションも個人個人で異なるものを提供して、それぞれの時間を大切にしている。	利用者間の人間関係は職員が間に入り上手く調整している。レクリエーションは利用者の希望を聞き、各々得意なものができるよう用意されている。かねてより、家族の希望であった一泊旅行も本人、家族、看護師で相談し、実現できている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から、利用者様の生活歴・暮らし方・生活環境など、詳しく聞き取り、職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活リズムを把握した上で、本人とのコミュニケーションを通して情報収集をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で、利用者様全員のケース・カンファレンスを検討している。医師や看護師の意見を参考にし、利用者様やご家族の希望を介護計画に反映し支援に努めている。	前回の目標であったサービス担当者会議への家族参加は、一組であるが直接意見交換することができた。日頃の利用者の詳細な観察記録を基に看護師と協力医の連携で情報共有ができて、利用者の不穏になるシグナルに気づき対応策が計画に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフが気づいた点は、申し送りノートに記入し、それに基づき会議で検討し、ケアサービスの統一を実施している。さらに状況の変化に伴い、常に見直しも実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の通院介助や付き添いの支援を実施している。医療連携体制をとり、看護師による健康のチェックや相談も実施した。緊急時はすぐ連絡し、かけつける体制もとっている。更に必要時は看取り契約を行い、本人や家族に合わせたサービス提供を行った。		

グループホーム ホープ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により、地域資源の訪問は、企画のみで実現出来なかった。民生委員様より、地域の集まりへの参加の提案を受け、検討するが、実現出来なかった。しかし、どんと焼きは参加できた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を家族同伴で受診する際は、利用者様の健康状況を説明した文書を渡している。連携医療期間の受診は月に一度ある。ほとんどの利用者様が希望されている。	契約時にかかりつけ医が選択できることを説明している。職員である看護師と担当医との連携により、緊急時の対応も応じている。受診時は看護師から利用者の状態把握に役立つコメントや動画など医師に見せ、適切な医療支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康相談や健康管理を実施し、介護職からの情報により、身体的及び精神的ケアを行う。また異常の早期発見による対応により、悪化を防ぐように努めている。かかりつけ医の受診や入院措置等迅速な対応を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族の同意を得て利用者が入院した際は、看護師が立ち合い、ご家族の良き相談相手となっている。また病院関係者と相談し、早期退院に向け支援を実施している。また病院の相談員との関係を築き、情報の収集を行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り計画書を作成し、情報、方法を共有して職員と医療の連携を図り、利用者様とご家族にとっての良い終末期を過ごして頂く事が出来た。	看取り計画は看護師が見極め、家族に相談し医師と検討して立てている。家族には看取り計画を立てる時期や要望を聞き、利用者や家族にとって穏やかな終末期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を各階に貼りだし、迅速な対応が出来るようにしている。また消防署の協力を得て救急救命法やAEDの研修を実施し、2月に予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	所内会議で、災害時は高齢者対策として、施設内での待機とし、その場での生活の維持、地域との住民との連携出来る体制の準備をした。地域住民が避難される事も想定に、施設へ受け入れ等、相互扶助で協力体制も検討した。	防災訓練は年2回実施していたが、コロナ禍で今年度は1回となり、水消火器を使つての訓練に利用者も参加した。全職員が救急救命講習会を受講し、通報は新任職員が担当する予定である。地域にはAEDの設置や福祉避難所であることを伝え、事業継続計画は作成中である。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を否定するような声掛けを聞いた場合、すぐ管理者に報告して、当事者との意見交換を実施して再発防止に努めている。個人のプライバシーの侵害が虐待につながる事を学び、適正な声掛けをするように心がけた。	職員研修において不適切ケアの原因を分析し、全職員が常に介護される立場を考え、人格を尊重したケアの意識化を図っている。トイレの一つが浴場の脱衣室にあり、仕切りにカーテンを付けて羞恥心やプライバシーに配慮している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や要望を尊重して、自己決定しやすい声掛けを心がけ、実行した。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められない利用者様にも、提案助言によって、自己決定して頂けた。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴から本人の個性をいかした身だしなみやおしゃれのアドバイスをしている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人が食事を楽しめるよう利用者様にあった形態で提供する。また誕生日や各行事にあったお菓子等を手作りにて提供したり、お正月には利用者様の要望でうなぎ・海老フライを提供して、皆さんに喜んでいただけた。	食材を業者から調達し、朝食は夜勤者が作り、昼・夕食は調理専任の職員が手作りしている。事業所の畑で採れた野菜を使ったり、秋は敷地内で収穫した栗や柿で栗ご飯やきんとん・干し柿など利用者と一緒に作り楽しんでいる。外食の代わりに、贅沢ランチを提供している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好きな物しか飲まれない利用者様は家族の協力を得て定期的に好みの牛乳をもちこんで頂き水分摂取量を確保している。食事摂取の困難な方には、ご家族と相談の上、好みの果物・食べ物、ラコール等で積極的に摂取してもらい食事を楽しんで頂く工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立度が高い方は、声掛け、見守り、仕上げを行った。寝たきりの方の口腔ケアに力を入れ、舌ブラシやスポンジ、ウエットシートを使用して、こまめな口腔ケアで清潔保持に努めた。	

グループホーム ホープ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、排泄パターンを把握している。尿意があまりない利用者様も表を利用して早めのトイレ誘導を心がけている。他の施設で夜間のトイレ誘導がなかった方も定時の誘導を行う事で、尿意が復活した。	排泄チェック表から排尿パターンを掴み、早めの声掛けでトイレでの排泄を習慣化し、排泄用品の使用軽減に努めている。夜間は起きる習慣のある利用者の部屋の近くに職員が待機し、布団に付けた鈴や靴のマジックテープのはがす音で気づき対応している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて利用者様の状況を把握している。便秘対応を個々に決めて看護師の指示により便秘解消に努めている。排便状況での時間、下剤の容量の再検討で適切な排便ケアができた。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度の利用者様の対応できる風呂用昇降椅子を導入し、いままでシャワー浴だった方、目の不自由な方も体調が悪く歩行が心配な方も浴槽に浸かって喜ばれた。	1階フロアーには家庭用浴槽と昇降椅子が付いた浴槽があり、2階は家庭用浴槽が設置されている。昇降椅子の浴槽を現在3名が使用し、湯舟につかることでゆっくり入浴を楽しんでもらう事が出来ている。同性介助の希望に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の体調に合わせ、休息をとっていただくようにしている。日中と夜間のリズムをつけて安眠につなげるように心がけたり、話し相手となり安心して頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は医療ファイルを確認して、全スタッフ把握できるシステムにしている。服薬時には日付・氏名・時間・錠数等、確実に口腔内に入った事を確認して、ミスの防止を徹底している。また服薬済の空袋を使用して、二重チェックを実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材のもやしの芽取りなどは、出来る方全員でもらっている。食事の前後のテーブル拭きも利用者様にお願いしている。時々、ぜんざいを豆から煮て利用者様に喜ばれている。またデザート盛り付け、リズム体操も実施し、参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換、体力向上の為、近所を散歩し、地元住民の方との触れ合いを持っていただいている。またどんと焼き等町内の行事に参加したが、コロナ禍のため、日常的な買い物へお連れすることが出来なかった。	以前行っていた買い物支援は中止しているが、近所へ散歩に出かけたり、今年はずんど焼きにも参加することができた。近くの虎渓山へドライブにも行き、気分転換ができています。利用者希望の夕食はコロナ禍で中止している。	



グループホーム ホープ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にお預かりしているお小遣いの中から、パジャマや身の回りの必要な品をスタッフと話し合い、ご家族へ連絡し、お待ち頂けない場合は、代わりにスタッフが、お小遣いで購入して提供した。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文章は難しいため、テレビ電話で通話してる事と毎月、絵手紙を家族に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気の灯は、その時の精神状況に合わせて変えたり、室温・陽射しにも配慮している。壁面に季節折々の絵や小物等を貼り、季節感を楽しんでいただいている。クリスマスツリーなども利用者様とスタッフと一緒に手作りで作った。正月には書初めもおこなった。	ホールの壁には利用者の作品が貼ってあり、楽しく、明るい雰囲気がある。同ホールには対面キッチンがあり、食事の準備のにおいが漂い利用者の五感に働きかけている。ソファーや空気清浄機があり、好きなところに座れるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに大きなソファーを置き、自由に会話が持てるようにしている。また時々、1階と2階の行き来することで、気分転換をはかってもらう。また疲労が見られる時には、居室での休養をすすめた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規の利用者様に好みの家財道具とご主人の遺影を持ち込んでいただいた。毎日、会話をして心身の安定をはかられている。ご自身でつくった作品を室内やホールに貼り楽しんでいただいた。	居室の入り口には顔写真と名札が付けられ、自分の部屋が分かるようになっている。室内は電動ベッドとエアコンが備え付けてあり、個人のお気に入りの家具やテレビを持ち込み、自分の作品や写真を飾っている。部屋の広さは約4.5畳で家具等につかまりながら移動できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台が上下可動式になりまた浴室の手摺りの導入で利用者様が自力で移動したり利用したりできる範囲が広がった為見守りにて出来る事はして頂けている。また居室入口に名前のプレートと写真を飾りご自分の部屋である事が見た目で見える工夫をした。		